

主 題：恵みシリーズ20、イエスは神である
聖書箇所：ヨハネの福音書 10章22-39節

今日のテキストはヨハネの福音書10章、22節からみことばを学んでいきます。すでに、見て来たように、主イエス・キリストは盲人をいやされました。その後、イエスは多くのユダヤ人たちに救いのメッセージを語られました。そのことを私たちはこの9章、10章で学んで来ました。10：22を見てください。「**そのころ、エルサレムで、宮きよめの祭りがあった。**」、ここにはいつどこでイエスの話が為されたのかが書かれています。場所は「エルサレム」である、そして、ときは「宮きよめの祭り」があったときだと言います。これはイスラエルの恒例の祭りですが、大体12月のクリスマスの時期に行なわれます。23節に「**時は冬であった。...**」とあるので納得できます。7章には「**仮庵の祭り**」が出て来ました。感謝なことに、このような「祭り」が記されているとそれがいつのことかが分かります。

「**仮庵の祭り**」は10月です。ですから、7章から今日見る10章まで大体2ヶ月と少しの時間が経過したと見ることが出来ます。場所はエルサレム、23節に「**イエスは、宮の中で、ソロモンの廊を歩いておられた。**」とあり、この「**ソロモンの廊**」は神殿の東に位置し、オリーブ山に向いているところです。そこにイエスがおられたということが分かります。

これから、イエスとユダヤ人とのやり取りを見ていきますが、その前にこの「宮きよめの祭り」について簡単に説明します。これは紀元前167年にある戦争が起こりました。マカベア戦争とかマカバイ戦争と言われます。なぜ、この戦争が起こったのか？その当時、ユダヤはセレオコス朝シリア王国によって支配されていました。彼らはユダヤ人たちに対して偶像崇拜を持ち込みました。エルサレムの神殿にゼウスの偶像を持ち込んで、ユダヤ人たちにその偶像を崇拜するようにと強要するのです。ユダヤ人たちはそれに反発し、特に、このマカベア家のひとりの祭司が同士たちを集めて戦いを挑むのです。2年後の紀元前165年に彼らはセレオコス朝に勝利を収めます。そして、エルサレムの神殿が奪還されて宮から偶像をすべて追い出すのです。そうしてこの宮をきよめたのです。それがこの祭りが始まった理由です。その後、ユダヤ人たちはそのことを記念して、キスレーウ（ユダヤ暦の第9月）の25日から8日間祝います。この祭りのことをイスラエルでは「宮きよめの祭り」、「ハヌカー」と呼ばれます。

その祭りのときであったとみことばは記しています。24節から見ていくのですが、皆さんも驚かれることと思いますが、ユダヤ人たちは同じ質問を繰り返しています。いったい、いつになったら彼らは学ぶのでしょうか？

A. イエスの正体を尋ねるユダヤ人 24-25節

24、25節を見ると彼らはまたイエスの正体を尋ねています。しかし、彼らの心はイエスに向いていません。心は頑なでした。

1. 繰り返される質問 24節

「:24 それでユダヤ人たちは、イエスを取り囲んで言った。「あなたは、いつまで私たちに気をもませるのですか。もしあなたがキリストなら、はっきりとそう言ってください。」、「いつまで私たちに不安をさせるのですか？」と言っているのです。ヨハネ8：25に「**そこで、彼らはイエスに言った。「あなたはだれですか。」**」イエスは言われた。「それは初めからわたしがあなたがたに話そうとしていることです。」とあり、同じヨハネ7：26では「**見なさい。この人は公然と語っているのに、彼らはこの人に何も言わない。議員たちは、この人がキリストであることを、ほんとうに知ったのだろうか。**」と書かれています。

2. 主イエスはキリストである - その証拠 25節

1) ことばによって明確に語られた : わたしは話しました

イエスはこれまでご自分がキリストだということを隠しておられたのでしょうか？違います。このヨハネの福音書だけを見ても、イエスは繰り返してご自分がキリスト、救世主であることを話して来られています。25節をご覧ください。「イエスは彼らに答えられた。「わたしは話しました。しかし、あなたがたは信じないのです。…」と、ですから、「あなたがいったいだれなのか教えてください。あなたはキリストですか？」と問い掛けるユダヤ人たちに対して、イエスは「もうわたしは何度も話したではないか。」と答えます。実際に、イエスはことばをもってご自分がキリストであることを話して来られました。

思い出してください。サマリヤの女との会話ですが、彼女は非常に賢いことを言います。ヨハネ4：25、26「:25女はイエスに言った。「私は、キリストと呼ばれるメシヤの来られることを知っています。その方が来られるときには、いっさいのことを私たちに知らせてくださるでしょう。」:26イエスは言われた。「あなたと話しているこのわたしがそれです。」、こんなにはっきりと言われました。「わたしはキリストだ、メシヤだ、約束の救世主だ」と、はっきりご自分のことばで語っておられます。

また、ヨハネ9章で見たところですが、いやされた盲人が会堂から追放されたときに、イエスは彼を見つけてこのように言われました。9：35－37「:35イエスは、彼らが彼を追放したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。「あなたは人の子を信じますか。:36その人は答えた。「主よ。その方はどなたでしょうか。私がおの方を信じることが出来ますように。」:37イエスは彼に言われた。「あなたはその方を見たのです。あなたと話しているのがそれです。」と。

ですから、イエスはもうすでにご自身のことばをもって繰り返してご自分が救世主であることを明らかにして来られました。疑う余地はありません。こうしてはっきりと記されているからです。

2) 行ないによって明確に語られた : わたしが父の御名によって行なうわが、わたしについて証言しています 25C節

イエスはご自分が救世主であることを話ただけでなく、わたしの行ないをもって証明して来たと言われます。実は、そのことは何度か繰り返されています。10：37－38をご覧ください。「:37もしわたしが、わたしの父のみわざを行っていないのなら、わたしを信じないでいなさい。:38しかし、もし行っているなら、たといわたしの言うことが信じられなくても、わざを信用しなさい。それは、父がわたしにおられ、わたしが父に在ることを、あなたがたが悟り、また知るためです。」、「わたしがどんな行ないをしているかよく見てごらんください。わたしが父のみわざを行っていないのなら、わたしを信じなくてもいい。」と。ここでもイエスはご自分が父なる神のみこころを行なっていることを言われたのです。

また、ヨハネ14：11にも「わたしが父に在り、父がわたしにおられるとわたしが言うのを信じなさい。さもなければ、わざによって信じなさい。」とあり、「わたしの言っていることが真実かどうかはわたしがどのような行ないをしているかを見ればいい。」と言われたのです。

こうして、繰り返される質問に対して、「わたしの言うことをよく聞きなさい。わたしはキリストであると何度も言って来た。わたしの行ないを見なさい。そうすれば、わたしの言っていることが真実であることが分かる。問題はあなたがたが聞いても聞いてもそれを信じないことである。」と、イエスはこのように言われたのです。

B. 彼らが信じない理由 26節

そこで26節を見ると、非常にショッキングなことをイエスは言われています。彼らがどうしても信じないその理由です。「しかし、あなたがたは信じません。それは、あなたがたがわたしの羊に属していないからです。」と。

1. 主の羊ではないから

「わたしの羊に属していないからです。」と、あなたがたが選ばれていないからだと言われたのです。確かに、ヨハネの福音書ではそのことが繰り返して教えられていました。6：37、44です。「:37父がわたしにお与えになる者はみな、わたしのところに来ます。そしてわたしのところに来る者を、わたしは決して捨

てません。」、イエスのもとに来る者は父なる神がイエスにお与えになる者だと言われたのです。ですから、救いの主導権は神にあるということです。神がその働きを為さるということです。「:44 わたしを遣わした父が引き寄せられないかぎり、だれもわたしのところに来ることはできません。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。」、同じように、この救いに関する主導権はだれにあるのか？父なる神ご自身が罪人をご自身のもとに引き寄せない限り、父なる神が働かれない限り、人は救いを求めてキリストのもとに来ないと教えているのです。

同じように、ヨハネ8：47にもこのように記されています。「神から出た者は、神のことばに聞き従います。ですから、あなたがたが聞き従わないのは、あなたがたが神から出た者でないからです。」、神によって救いに与っているなら、あなたにはそれにふさわしいしるしが伴うということです。「神から出た者は、神のことばに聞き従います。」と、このことはこの後見ますが、救いはすべて神のわざである、私たちが神を選んだのではなく、神が私たちを選んでくださったのです。

2. 主を受け入れたくないから

ですから、イエスが「どうしてあなたがたが救いに与らないのか？」とその理由として挙げられたのは「あなたがたは選ばれていないからだ」ということです。そうすると、多くの人たちが思うことは、罪のさばきを受けるとき、このさばきの責任は自分ではなく、自分を救いへと選んでくれなかった神にあるのでしょうか、だから、責められるのは神ではないですか？という言い訳です。そのことを度々耳にします。選ばれた人が救われる、選ばれなかった人は救われない、では、私がこうして永遠のさばきに至るのは、神が私を選ばなかったからであって、責任は神にあるのではないですか？と。

◎彼らが主を受け入れない理由

でも、聖書はこう言っています。ヨハネ3：19、20にこうあります。「:19 そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行いが悪かったからである。:20 悪いことをする者は光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。」、

(1) 光よりもやみを愛した

「光」は神であり「やみ」は罪です。ですから、なぜ、信じないのか？ということに関してイエスが言われたことは、彼らが光である神よりもやみを愛している、もっと言うなら、神よりも自分を愛しているからだということです。自分の思い通りに生きようとしている。神を選択すべき私たちが、神ではなくそれ以外のものを選択している、光よりもやみを愛した、だから、あなたがたはこの救いに来ないのだと言われるのです。

(2) 光を憎んでいる

光の方に来ない理由の二つ目は「光を憎んでいる」からだと言います。

こうして見たときに「神の責任」だと言えますか？確かに、聖書は「あなたが救われたのは神の選びだ」と教えています。でも同時に、人間の責任も教えています。なぜ、あなたが救いを求めないのか？あなた自身が神よりも神以外のものを愛しているからだと言います。イエスは「あなたがたが救いを求めないのは、あなたが神を憎んでいるからだ。」と言われます。

だから、だれひとりとして「私が永遠の滅び、地獄に行くのは神のせいです。」とは言えないのです。なぜなら、それはあなた自身の選択だからです。この中でまだイエスを信じていない方がおられるなら、そのことを覚えてください。あなたは神よりも他のものを愛しているのです。そして、あなたは、あなたを造ってくださりあなたを罪から救ってくださる神を憎んでいるのです。そのあなたの誤った選択があなたにふさわしい永遠のさばきをもたらすということです。

私たちはよく、まだイエスを知らない人たちが教会に来られて神のおことばを聞かれて、「非常に心が痛い、心が責められた」ということばを聞きます。もちろん、これはイエスを知らない人たちだけでなく、クリスチャンも同じです。何がその人たちの心に起こっているのか？皆さんを愛する主が、その人が救われていないなら、どれ程、父なる神が嫌われることを行なっているのかを示してくださってい

るのです。神はみことばを使って、その人の心の中に「あなたの行ないは間違っている、あなたの生き方は間違っている。」と教え責められるのです。あなたの心がどれ程罪に汚れているのかを神はあなたに示してくださっているのです。そのように神があなたの心に働いておられるのです。

しかし、多くの人たちは自分の心が責められたと言ってもその後どうしますか？責めてくださった神を信じて罪の赦しをいただいて、生まれ変わって新しい歩みをしようとするのでしょうか？どちらかと言うと、ほとんどの人はその神から遠ざかろうとしませんか？「あんな耳の痛いことを聞くのはもういいです。あのように責められるところはもういいです。」と。神がその人を愛して、その人にすばらしい救いを与えるために本当の姿を見せようと働いてくださっているのに、その神の働きを受けた人たちは「もういいです。私には必要ではありません。」と言うのです。これは神のせいでしょうか？その人が自分の意志をもって神の働きに対してNO、要らないと言い続けているのです。

それが理由だと言います。だから、聖書が私たちに教えています。なぜ、人々はみことばを聞いても聞いても救いに与ろうとしないのか？確かに、彼らは神に選ばれていないから、同時に、みことばを聞いても、そして、神がその人の心に働いてくださって、神がその人を愛するゆえに救いに導こうとしてくださっているにも拘わらず、あなたは自らの意志によって「それは要らない」と拒み続けていると。

ですから、救いに関してこの二つのことが聖書によって教えられているのです。だれひとりとして、永遠のさばきに至るときに「神のせいであった」とは言えないのです。ひとり一人、自分の意志によって神に逆らう選択をしているからです。神よりも自分を愛するのです。「自分の人生なのだから楽しまなければいけない。」と、そうして神に逆らうのです。そして、あなたを造りあなたを愛し、あなたのために救いを備えてくださっている神を実は憎んでいる。その証拠に、その神を愛することをしないのです。神が喜ばれることをしないのです。却って、神が憎んでおられることを自分から進んで喜んで行かない続けるのです。だから、あなたはこの救いに来ないと言われるのです。

C. 彼らが信じる理由 27節

「あなたがたはわたしの羊ではないから」と、そのことを話されたイエスは、27節を見ると、今度は彼らが信じる理由について、なぜ、人々は救いに与るのか？その理由を説明されます。「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。」と。彼らは「神の羊」だから、「わたしの羊」だからです。

・自分の羊 : すでに10:3, 4で見ました。イエスはある羊のことを「自分の羊」と呼んでおられます。

・わたしのもの : 14節にはその羊のことを「わたしのもの」と呼んでおられます。

・わたしにはまた、この囲いに属さないほかの羊があります : 16節にこのように書かれていました。注意して見ていただきたいのは「あります」ということばです。この動詞は「所有する」という意味があります。すなわち、この囲いに属さない羊、つまり、異邦人の中にわたし自身が所有している羊があると言われたのです。ですから、彼らがなぜ救われるのか？神によって選ばれた者たちだからです。

***すなわち、「神の羊」とは、神によって「救われる者」として選ばれた者たちのこと**

27節をもう一度見てください。ここには三つの救われた人の特徴が書かれています。これはもう繰り返されていることです。

1) 主の声を聞き分ける 3, 4, 16節 : しっかりと真理に耳を傾けます。

2) 主と個人的な関係を持つ : 「またわたしは彼らを知っています。」

3) 主に従う : 「彼らはわたしについて来ます。」、本当に救われている者たちは羊飼いである神に喜んで従って行こうとします。

これが救われている者の特徴です。まさに、このような関係に入れられた人たちです。

先ほど見たヨハネ3章に戻ってください。21節に「しかし、真理を行う者は、光のほうに来る。その行いが神にあってなされたことが明らかにされるためである。」とあります。先ほどは、3：19、20で「なぜ、人々はこの救いを信じないのか？神よりも他のもの、神でないものを愛しているから」と見ましたが、21節には「**救われた人の特徴**」が記されています。

1) 真理を行なう : 19、20節では彼らは真理を行わないとありました。全く逆です。彼らは真理を憎んでそれから離れていこうとします。でも、21節に書かれている人は、真理を行なうのです。神から離れるのではなく神に近づいていくのです。別の言い方をすれば、神のみことばを行なう人たちです。神のみこころを求めて何としてもそのみこころに従って行こうとするのです。ですから、みことばを聞いているときに、神はあなたの心を責めてくださる。神は不思議な働きをされます。同じようにメッセージを聞いていても、神は一人ひとりにいろいろなことを教え導かれますが、そこにある真理はひとつです。神はそのみことばを通して皆さんひとり一人の心にいろいろなわざを為されます。あなたを愛する神はあなたに必要なことを教えてくださるのです。ときには、あなたが変わらなければいけないところ、あなたの弱いところ、あなたの問題をあなたに示してください。

2) 光の方に来る

先に私たちが見たのは、イエスを信じていない人はそのように神に責められるともう聞きたくないから離れようとするということでした。では、神に喜ばれることをしたいと願っているクリスチャンは、神が心を責めてくださるとき「神さま、分かりました。ありがとうございます。私が変わらなければいけないところを教えてくださいました神さま、ありがとうございます。そのように変わっていきたいです。あなたが教えてくださっているように生きていきたいです。主よ、どうぞ、私を助けてください。」と、神から離れるのではなく光である神の方に来るのです。神にもっと近づいて行こうとするのです。

光の方に来る人たちにはある特徴があります。それは「神に喜ばれたい」と願うことです。パウロはこのように言っています。Ⅱコリント5：9「**そういうわけで、肉体の中にあると、肉体を離れていようと、私たちの念願とするところは、主に喜ばれることです。**」、これがパウロの願いでした。そういう願いが私たちにも与えられています。また、コロサイ1：10でも「**また、主にかなった歩みをして、あらゆる点で主に喜ばれ、あらゆる善行のうちに実を結び、神を知る知識を増し加えられますように。**」と言っています。だから、主によって贖われた者は、神のみことばを聞き、それに喜んで従って行こうとします。同時に、神を愛するゆえに、神が喜ばれることを益々行なっていきたく願って生きています。それが救いに与った者の特徴なのです。

さらに、21節のみことばはこのように教えています。かつての私たちは真理を憎みそれから離れていました。光を憎んでそれから遠ざかっていました。ところが、私たちはその真理を愛し、光である神に近づいて行こうとします。そのような変化があるのです。

***なぜ、このようなことを行なうのか？** : 21節「**その行いが神にあってなされたことが明らかにされるためである。**」、「**その行ない**」とは「神が喜ばれる新しい行ない」のことです。実は、21節のみことばを見ると「**真理を行う者は、光のほうに来る。**」とあり、この「**来る**」ということの目的がその後に記されているのです。実はここに、目的を表わす接続詞を付けています。ですから、イエスはここで「このような行ないをする目的は何か？彼らが益々神に喜ばれることを行なって行こうとする、その行ないの目的は何か？」、それを教えているのです。それは「**その行ないが...**」、行ないは複数ですから、神を喜ばせる数々の良い行ないが、あなたの努力ではなく神にあって為されたことを明らかにするためだということです。つまり、神が私を変えてくださっているということを明らかにするために、神によって救われた人はそのような行ないをしていくと、聖書は教えているのです。

これらの働きは神が為されるみわざです。神が私たちを変えていってくれる、これが救いです。ただ、自分は救われていると思っている人と、神によって救われた人とは根本から違うのです。その人が

本当に救われているかどうかは、その人の生き様がどう変えられていくかです。だから、私たちがみことば

を聞くのは私たちの生き方が変わるためです。変わらなければ問題があるのです。何年経っても子どもたちが成長しなければ私たちは「おかしい」と思います。信仰とは、天国への切符をいただいたからそれで満足、ではありません。神がくださる救いは私たちを日々変えていきます。キリストに似た者へと変えていくのです。そして、そのことによって、その働きを為してくださっている神が明らかにされていくのです。私たちが自分の意志によって、努力によって変わるということではありません。

もちろん、私たちは神のみことばに従って行くという責任があります。しかし、神はその働きを通して私たちを変えていかれるのです。そして、神ご自身は「この人のうちにはわたしがいるのです。この人をわたしが変えているのです。」ということを通して人々に明らかにするのです。これが神の救いです。忘れてはいけません、皆さん。神は一方的に私たちにこの救いをくださった、私たちを生まれ変わらせてくださった。それで終わりではありません。生まれ変わった者として私たちは成長していくのです。その働きを神は私たちのうちに為されます。そして、そのすべてを通して神ご自身が明らかにされていくのです。

どうして神に喜ばれることをしていこうとするのか？神の栄光をどのように現わそうとするのか？それが救いだからです。そのような人へと神は私たちを生まれ変わらせてくださり、そういう人として歩み続けていくように神が私たちを導いていかれるのです。ですから、救われているといってもその生活が全然変わっていないなら、あなた自身が自らの救いをしっかりと疑ってみることで、神がくださる救いはこのような働きをすると聖書が教えているからです。

D. 主イエスの祝福 28-30節

27節に「わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。またわたしは彼らを知っています。そして彼らはわたしについて来ます。」とありました。続いて28-30節「:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは決して滅びることがなく、また、だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」、:29 わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。:30 わたしと父とは一つです。」、四つのことが教えられています。

1. 主がご存じである 27節

神はあなたのことを知ってくださいています。感謝なことです。私たちは自分のことを一生懸命神に説明しなければならぬ、その必要はないのです。神はすべてをご存じです。私たちの弱さも愚かさも分かっておられます。その神によって私たちはしっかりと守られています。その方が私たちを導いていってくださいます。

2. 永遠のいのち 28節

「わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。」と言われます。

3. 永遠のいのちの保証 28節

しかも、そこにはすばらしい保証があります。永遠のいのちを神からいただいた人はその永遠のいのちを決して失うことがない、決して滅びることがないと言うのです。「だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません。」と言っています。

4. 祝福の確実性 28-30節

そして、このすばらしい救いの確実性を教えています。28節から30節を見ると、主イエスが神だからとあります。これらの祝福を与えることができるのは、主イエスが神だからです。神だからこの約束は必ずそうなるのです。私たち人間が約束をしても、私たちは不完全なものですからできないことがたくさんあります。でも、神にはできないことはありません。神が言われたことは必ずそうなります。神が永遠のいのちを与えるとされたなら、私たちは永遠のいのちをいただくのです。神が生まれ変わらせるとされたなら、生まれ変わるのです。「だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません」

ん。」と言われたなら、絶対にそれは起こらないのです。なぜなら、ここには神の約束が含まれているからです。その保証を見ましょう。

1) 彼らは決して滅びることがない 28節

「決して」と「ない」と否定が二つあります。原語ではこれらが二つ並んでいます。それは否定の強調です。ですから、この28節でイエスが言われたのは、「永遠のいのちを与えた人は、絶対に滅びることはない、断じて～ない。」です。そのような約束を主はお与えになりました。

2) だれもわたしの手から彼らを奪い去るようなことはありません 28節

3) だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません 29節

28節には「わたしの手から」とあり、29節では「わたしの父の御手から」となっています。「わたしの手」とはイエスのこと、「わたしの父の御手」とは父なる神のことです。

そして最後に、30節には「わたしと父とは一つです。」と言われました。こうしてイエスは「この約束、この祝福は神によるものである。そこには神ご自身の保証がある。」と言われたのです。イエスの与え

る約束は神が与える約束です。なぜなら、主イエス・キリストと父なる神は同一だからです。本質においてもご性質においても全く同じ神だからです。ですから、このように神の完全な約束がここに記されているのです。

E. 不信仰を責める主イエス 31-39節

さて、このメッセージを聞いたユダヤ人たちはどうしたか？信じるどころかまだイエスを責めるのです。31-39節に書かれています。

1. イエスを責めるユダヤ人 31, 32節

「:31 ユダヤ人たちは、イエスを石打ちにしようとして、また石を取り上げた。:32 イエスは彼らに答えられた。「わたしは、父から出た多くの良いわざを、あなたがたに示しました。そのうちのどのわざのために、わたしを石打ちにしようとするのですか。」、彼らがこのような行動、すなわち、イエスを石打ちにしようとしたのは、彼らがイエスの語っておられたメッセージを明確に理解したからです。イエスは問われています。「わたしは、父から出た多くの良いわざを、あなたがたに示しました。そのうちのどのわざのために、...」、「どのわざ」とは単数です。「たくさん良いわざを行なって来た、そのうちの一つでいいから挙げてみて、石打ちに値するようなことをわたしがしたと言うなら、一つでいいからそれを挙げてみてください。」と言われたのです。

2. イエスを責める理由 33節

そうすると、33節に彼らがイエスを責める理由が記されています。「良いわざのためにあなたを石打ちにするではありません。」と。一つでいいから石打ちに値するわざを示しなさいと言ったときに、「ありません」と言っているのです。あればその行ないを指摘するはずですが、イエスを責めている彼ら自身が教えているのです。イエスのうちには石打ちに値する誤った行ない、罪はなかったと...。だから、続いて「冒涇のためです。あなたは人間でありながら、自分を神とするからです。」と言っています。よくそのことに気付いたと思います。それがイエスの主張だったからです。イエスはご自分が神だと言われました。彼らはそれを聞いてそのことは頭で理解したのです。

3. 主イエスの主張 34-39節

その理由を聞いた後、イエスの主張が34-39節に書かれています。イエスは二つのことをもってご自分の主張をされています。一つは、みことばから、もう一つは、父なる神のみわざからの主張です。

1. 聖書（みことば）からの主張

34, 35節をご覧ください。「:34 イエスは彼らに答えられた。「あなたがたの律法に、『わたしは言った、おまえたちは神々である』と書いてはいないか。:35 もし、神のことばを受けた人々を、神々と呼んだとすれ

ば、聖書は廃棄されるものではないから、」、34節にあるみことばは旧約聖書のみことばを引用しています。詩篇82：6のみことばです。「わたしは言った。「おまえたちは神々だ。おまえたちはみな、いと高き方の子らだ。」、イエスが言いたかったことは、神を信じた人たちのことを聖書は何と呼んでいるか？

「神々」、神と呼んでいる。だから、だれ一人としてこのように書かれている聖書が冒涇だと言って聖書を廃棄することはしない。この箇所を読んでもまだあなたがたはこの聖書は神のことばであると信じているのではないですか？と。聖書が神を信じた人々を神と呼んでいる、それをあなたがたは冒涇とは呼んでいない、でも、今、あなたがたはそれを冒涇と呼んでいる。わたしは「わたしがだれなのか」を明らかにした。そして、今、あなたがたはそれを聞いて「神への冒涇だ」と言っていると、このように主張されています。

つまり、旧約聖書が神のことばでないと言ってはおられません。主イエスは神のことばを語り、先ほども見たように、すべての点で良いわざを行なって来られたのです。そのような人間は世の中にいません。彼らは気付かなければいけないのです。イエスはご自分がキリストだと繰り返して言って来られたし、ご自分が神だと繰り返して言って来られました。なぜ、そのわたしが神だと言うのが冒涇になるのか？聖書の言っていることを聞いて信じた人たちが神だといっている聖書を、神への冒涇だとしないうあなたがたが、神であるわたしが神であると言って、なぜ、それが冒涇になるのか？と、このように主張されたのです。

2) 父のみわざからの主張 36-39節

36節『わたしは神の子である』とわたしが言ったからといって、どうしてあなたがたは、父が、聖であることを示して世に遣わした者について、『神を冒涇している』と言うのですか。」、イエスはここで何を主張されたのか？「わたしは神の子である」と、これがイエスの主張です。

◎その主張の正当性

(1) 父によって聖であると証明されたお方 36節

36節に「父が、聖であることを示して」と書かれています。父なる神がイエス・キリストに対して「この人には罪がない、この人は聖い」と言われていると。父なる神がそのように証明してくださっているのに、なぜ、冒涇になるのか？ということです。

(2) 父によって遣わされたお方 36節

「父が、...世に遣わした者」とあります。わたしは父なる神から遣わされて来たキリストだと言います。なぜ、そのわたしが「キリストだ、神だ」と言ってそれが冒涇になるのか？と。

(3) 父のみわざを行なっているお方 37, 38a節

「:37 もしわたしが、わたしの父のみわざを行っていないのなら、わたしを信じないでいなさい。:38 しかし、もし行っているなら、たとえわたしの言うことが信じられなくても、わざを信用しなさい。...」、先ほども見たように、イエスは「わたしは父なる神のみこころを行ない続けている。父なる神のみこころに逆らったことをわたしがしたと言うのですか？もし、そうなら、一つでいいから挙げてください。わたしは父のみこころを完璧に行なって来た。そのわたしがどうして神を冒涇していると言えるのか？」と言っておられます。

(4) 父と一つであられるお方 38b、39節

「それは、父がわたしにおられ、わたしが父に在ることを、あなたがたが悟り、また知るためです。」:39そこで、彼らはまたイエスを捕らえようとした。しかし、イエスは彼らの手からのがられた。」と。何が起こったのか？イエスが言われたことは「わたしと父とは一つです。」と30節で言われたことをまた繰り返すのです。「父がわたしにおられ、わたしが父に在ることを、あなたがたが悟り、」と、つまり、わたしがいったいだれなのかをあなたがたがしっかりと知るためだと言われたのです。このような特別な関係にあると。

これがユダヤ人とイエスとのやり取りでした。

信仰者の皆さん、感謝です。このすごい神が私たちを救いへと招いてくださった、私たちはこのお方と親しい交わりを楽しむことができる者へと生まれ変わったのです。この方が私たちの神なのです。この方が確かに私たちの救い主なのです。私たちを生まれ変わらせてくださって新しい人生をくださって、この神とこの日を楽しむことが出来る。私たちは声を大にして「今日死んでも私は生きるのだ！」と言い切ることができます。なぜなら、イエス・キリストはその死から敢然とよみがえって来られたからです。このような神によって救われ、このような神によって導かれ、このような神によって用いられ、そして、この神に私たちはお会いするのです。すばらしい祝福を主は私たちにくださった。それにふさわしく生きることです。

今見て来たように、神はあなたを救ってくださった、永遠のいのちを与えてくださった、それで終わったのではありません。あなたが生かされている目的がありました。日々あなたが変わえられることによって、あなたを変えてくださっている神があなたを通して明らかにされていくのです。そのために私たちは今日という日を神からいただいたのです。そのように生きていますか？「どうぞ、私を使ってください。私を使ってあなたのすばらしさを示してください。そして、願わくは、それを見ている人たちが、私の家族や友人たちがこのすばらしい救いへと招かれるように、私のためではない、主よ、あなたの栄光のためにしてください。」と、そのように祈りながら願いながら歩いておられますか？そのように生きることです、皆さん。それを神が私たちに望んでおられるから、それが神の教えだからです。

すばらしい救いに与った者として、その祝福がどんなにすばらしいのかをこの一日に証することによって、私たちは「神さま、感謝します。神さま、私はあなたを愛しています。」ということを証することになるのです。どうぞ、そのように生きてください。この神のすばらしさが私たちを通して明らかにされる、その目的のために。

《考えましょう》

1. どうして人は救い主を信じないのでしょうか？その理由を挙げてください。
2. 人が救われるのは神の働きであるということを聖書から説明してください。
3. 救われた人が永遠のいのちを失わない理由を挙げてください。
4. 主イエスが神であることを説明してください。 — 今日の学びで学んだことを —